



「かげろふ日記」は短大にて創設以来
 講義しつつくる書なれば、飯島氏
 にこの整版本の出でたらばお頼み申
 すと言ひおきしに、さる由緒ある家よ
 り出でしとして譲うる。估価壹万七千
 円。
 村井順



○右大将道經母

東朝古今義人之内也此傳者皆幽齋百人一首抄

素石兼相
 兼家
又号法興院
 入道

道隆伊周道雅
儀同三司号師内大臣
 元京大夫
 從三位

道兼
栗田園白
 母高二位業忠女是儀同三司也後拾遺
 北院也高二位伊周母道隆公妻

道長
御堂園白
 母高内侍有
 右二同
 東宮傳 号傳

道經
大納言

内院老大臣
 中納言
 長良
頭下四位下

高經
充馬頭
 惟
兵衛
 倫定

藤原
 長能
右大将道經
 兄弟



いしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう

しきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
かきぞある。

人ちたもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
ちかひもあつしうしきもあつしうしきもあつしう

幹子 成器

やあつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
しきもあつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
れ。

後撰戀二 平貞文
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう

あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう

わたりしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう

あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう

あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう

あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう
あつしうしきもあつしうしきもあつしうしきもあつしう

古今 中 吟
山に雲のこもる 霞のたふさぐ 雨のふるる 風のそよぶ

同 数行前
尾上の志のハ今や

んしはれいさなむのいさあん

あつめねをきこひね里よせまなから
あやしくいしなちきしるゝわね

しあゝさくつし

きうこのれのえさうりひせま
しつさあれたさあしハさうなを

5 ⁰¹³³あやのしあやのありなんははるこ

あしうのせまやなるなわらうもれ
こ傷といねまはるもこてやぬ

かん

新千三三三
こえりあゝあよさうりわきねとよまへ

三

みこそ城かききせたしきうかん

みやしくまねこうひていろうもあし
あつあん

し ^棒これのなはれるはまらねよ

あつあん ^棒あつあん

あつあん ^棒あつあん

あつあん ^棒あつあん

あつあん ^棒あつあん

わん

早と先なるきえん人つしけるまをりも
やら平と乃そいさるわいかなはにわいり

かくてあるうあつて志がうひなるとこ流よあ
流よとめして洗せ先てがぶよめどつよとれい
系流ひなもわい洗せかいつにぞいよのふあれたの
かんとあよかくつていよ平

れとわんわいさほよをれかなぞうこあ
しなよそけいゆハ平いぬらさりもわ
なとらよほよ九月よなりねげこもわあ
こて二よとわりええねわいももしかりほるがう

とよ

きえわんわいさほよをれかなぞうこあ
しなよそけいゆハ平いぬらさりもわ
なとらよほよ九月よなりねげこもわあ
こて二よとわりええねわいももしかりほるがう

かたき乃そいさるわいかなはにわいり
なまのあやも守りぬるく

○後松遺意ニ。入道撰文ノノガ午三ナリ侍ケル
コロリニナト云オコセテ注ケルハニツカハシケル
大納言道細母カシハ本ノ云

○後松遺意ニ。入道撰文ノノガ午三ナリ侍ケル
コロリニナト云オコセテ注ケルハニツカハシケル
大納言道細母カシハ本ノ云

○後松遺意ニ。入道撰文ノノガ午三ナリ侍ケル
コロリニナト云オコセテ注ケルハニツカハシケル
大納言道細母カシハ本ノ云

かたき乃そいさるわいかなはにわいり
なまのあやも守りぬるく

いなまもわいさる

守

いしりきや河をたれはゆるか、な

やそあるる 庭まき人見よこしなりりとし人ねりまよい
えしとやうりけるやうにまきまてとむわりけりほど
こそ乃しやうりちりもむらもむらもむらもむらもむらも
なぞるよろけ福のまよこやあはれとあうりしとあ
はんをきぬまねがりりみどしあしちらふまむら
あやこえはもてわんたといひてまきてのこころ
わむ城のまきぬしじあひてむくせはむら
まうらうちよきまきまきまきこころはえち
まかんわけてひのよふまきぬしじあひてむらをれりひ
あむらうちあむらうちあむらうちあむらうちあむらうち

上回入道指改

後拾

横川

いせお孫いれ人多ひて
雪よふしこころえらとあ
あむらうちあむらうち

けよハえらんもらんあむらうちとすおけりねようこ
めとらとるしあむらうちのほりねんあむらうちよるりこあむら
てあむらうちよこいしきしとあむらうちあむらうちあむら
しむらうちあむらうちあむらうちあむらうちあむらうち
とうとよまえてとめとれもて
なむらうちあむらうちあむらうちあむらうちあむらうち
よ二と目えねほやよものけりあむらうちあむらうちあむら
せにのうちあむらうちあむらうちあむらうちあむらうち

天曆九年乙卯

末

トラセヨ

あむらうちあむらうち
あむらうちあむらうち
あむらうちあむらうち

あむらうちあむらうちあむらうちあむらうちあむらうち
あむらうちあむらうちあむらうちあむらうちあむらうち
あむらうちあむらうちあむらうちあむらうちあむらうち

○ふきかしのし

いさむ見下しきつたりまきり

西王母

いさむ見下しきつたりまきり

好新

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

ハ

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

いさむ見下しきつたりまきり

とらえならまや... 海に毛平入...
なつとまうて海にまよふ...
と田日乃ほとにわいひのりあ

まよふ... 海にまよふ...
いづれにまよふ... 海にまよふ...

古今言

昔の言は... 海にまよふ...

海にまよふ

昔の言は... 海にまよふ...

海にまよふ... 海にまよふ...
海にまよふ... 海にまよふ...
海にまよふ... 海にまよふ...

水戸本
とちよ... 海にまよふ...

うけりひよもあな... 海にまよふ...
なとらほとに七... 海にまよふ...
のりよ... 海にまよふ...
まよふ... 海にまよふ...
まよふ... 海にまよふ...

まよふ... 海にまよふ...
まよふ... 海にまよふ...
まよふ... 海にまよふ...

いづれも...
あつた...
あつた...

いづれも...
あつた...
あつた...

いづれも...
あつた...
あつた...

いづれも...
あつた...
あつた...

いづれも...
あつた...
あつた...

いづれも...
あつた...
あつた...

六帖岡

ついでについでにのまゝのついでに
ついでについでにのまゝのついでに

馬鞭草 味名久末豆、良

衛矛 加波久万、良

陸奥国日理郡安福麻河伯神社、神名式アリ

さるくよりかゝあふまへもいせ
ゆふなるくもくともき平とえ縁とま
うなる所さうたもゆるんゆき
なまもかゝてのも人乃きせよ
まよいけらきうはらふあ
しりきえはまきえなんどむ人も
うねきまといはらふらふ
乃をうらぐはらふらふ
まふまふてやへもきせよ
るきあふくはのあひんて平と
ねりひけらなげくまうらう

下よまにわらぬよたもゆるま
城なぞやとむもくあふかり
しんてへりうらうたひい
かかこはらうらまて人のうら
あなうなわらうはらひて
うきせはらういせはらひ
いせはらうらうらうらひ
たひひあまはまはらうら
まふまふらまらうらうら
はらうらまらうらうら
うらうらまらうらうら

カレメシ

あまのこころを
うけとらむ

いあるあまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ

あまのこころを
うけとらむ

母

あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ

弟

あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ

あまのこころを
うけとらむ

母

あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ

弟

あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ

あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ

〇玉葉土七月七日
前右近大将道綱母
心ナラハ

あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ
あまのこころを
うけとらむ

よきまにわたりていふ人なりけり

ほせよあししやれりいこそやれ

又宮に

ちりきしむまきんかちるる縁はん

ところよふ又いひらきぬな

いそぎしかりわらぬあつとひはしりやま

んあつとひはしりやまのしきりやま

まのしきりやまのしきりやまのしきりやま

ぬきしきりやまのしきりやま

ところよふ又いひらきぬな

ちりきしむまきんかちるる縁はん

いそぎしかりわらぬあつとひはしりやま
んあつとひはしりやまのしきりやま
まのしきりやまのしきりやまのしきりやま
ぬきしきりやまのしきりやまのしきりやま

ちりきしむまきんかちるる縁はん
ところよふ又いひらきぬな
いそぎしかりわらぬあつとひはしりやま
んあつとひはしりやまのしきりやま
まのしきりやまのしきりやまのしきりやま
ぬきしきりやまのしきりやまのしきりやま

うきうきしむまきんかちるる縁はん

一かひと海平んかし海にわが那

又官

うらもなみのあやあちとちと海の

一ほろひのまなぶりのいせん

とこそたのひついでにせんとしつひがく

ほどのあつらひのほどもまあんと平んを

あまのちとれきよもあつらひのなま

らりはころやまゝしてあまのなま

せらゝをものけあやあつらひのなま

せしとろのわちあつらひのなま

ものまゝとろのほろ十五六日あつらひ

セシノロ

セシノロ

ほよまよとまのほやよなりはあつらひのなま

さほにあなひのまゝとまのほよにいとまほ

あつらひのなまよんてあつらひのなま

よてらちとまのなまよんてあつらひのなま

まよいてなまよんてあつらひのなま

てまよとまのなまよんてあつらひのなま

はをひらかにあつらひのなまよんてあつらひのなま

ゆるされてあつらひのなまよんてあつらひのなま

わらとまのなまよんてあつらひのなま

わつやしーろ

まんのよあ

